



公明党

質問者

おおもとくにみつ
大本邦光議員

所属議員

さいとうかずのぶ
齋藤一信議員



円滑なコロナワクチン3回目接種体制の構築について問う

議員 5歳から11歳の新型コロナウイルスワクチン接種に向けた、接種体制の準備計画についてたずねる。

市長 本市でも希望する小児への接種機会を提供できるよう準備を進めている。笠岡医師会の協力のもと、集団接種ではなく、しっかりと寄り添える医療機関での個別接種を行う予定である。使用するのはファイザー社の小児用ワクチンで、中和抗体価の上昇や発症予防効果が確認されている。接種は、1回目と2回目の間隔を3週間空けて2回接種することとされている。小児の場合、前後に他の予防接種を行うときは、原則として新型コロナウイルスワクチン接種と13日以上の間隔を空けることとなっている。こうした情報もお伝えし、接種を検討していただきたい。なお、新

型コロナワクチンの接種は全額公費で行うため無料である。接種券が届き次第予約することができ、接種開始日は医用機関によって異なるが、3月14日の週を目途に接種を開始する。

認知予防の推進について問う

議員 行方不明になった高齢者の安全を確保し、家族の負担を軽減することを目的とした「見守りシール」の導入についてたずねる。

健康福祉部長 本市には「認知症一人歩きネットワーク事業」というものがある。また、現在担当課で進めている「ヘルプマーク」について、認知症の方の支援になると考えている。紹介いただいた「見守りシール」については、本市ではまだ実施していないため、今後、研究し、運用について検討していきたい。



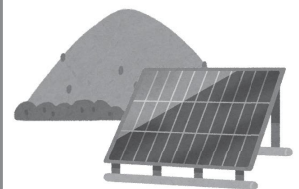
改革21

質問者

くらもと たかふみ
藏本隆文議員

所属議員

ふじい よしあき
藤井義明議員



まちづくり協議会条例で地区はどう変化するのか

議員 ①この条例が策定されることで協議会がどのように変わるのか。②多岐にわたる行政サービスのため、協働の範囲を拡大する重要性が条例にないのはなぜか。③市の組織ごとに地域から委員の選出が必要のため、組織の簡素化等を望むパブリックコメントが多いが一切形態を変えないのはなぜか。

市長 ①協議会で計画を策定することで、持続可能なまちづくりを進めることができる。②地域の多様な主体が協働して課題解決の活動に取り組んでいくことが重要である。③現段階ではそれぞれ必要と考えている。

議員 条例が策定されることで、市民と行政互いにとって良くなるということを明確にしてほしい。

斜面に乱立するソーラーパネル設置による災害を未然に防げ

議員 近年、市内の傾斜地にソーラーパネル設置場所が増えている。土砂災害警戒地域の下に位置する住民からは不安の声が上がっている。設置業者は許可基準に合うようにしているものの、法整備はいつもし追いついていない。住民の安全確保のための条例制定はできないか。

市長 県では条例により、土砂災害の発生する恐れが特に高い地域への設置を禁止している。本市においては、現時点では条例制定の予定はない。

議員 事が起こるたびに後追いで法整備されている。法の隙間を縫って設置している事例もある。住民の安全のためには市の条例制定が必要である。